



毎日を安心して暮らせるまち



3 進化する救急搬送！さらなる救命率向上を目指して

市内医療機関の協力の下、救急業務は内科系輪番・循環器輪番の体制を構築しており、症状に応じた適切な医療機関への搬送により、救命率の向上と予後の早期回復に努めています。

また、消防指令センターでは119番通報を受け、災害現場に一番近い消防・救急車両を自動で選定し、出動指令を出しています。さらに、救急出動が多発した際に救急空白地域の発生を防ぐため、機動的救急隊「M.O.A.」を創設しました。



◀このエンブレムが付いたM.O.A.を見かけたら救急出動がひっ迫しているサイン！

Live119では映像を確認しながら通報者に対応指示



高機能消防指令センター



傷病者の救護に当たる救急救命士

津のきらり 救命士

KYUMEI-SHI

津市消防本部 救急救命士 小野麻衣さん



救急隊が少しでも早く現場に到着できるように、M.O.A.の仕組みを提案しました。

M.O.A.の運用により救急体制の強化を図れるだけでなく、市民の皆さんの安心にもつながると思います。

また、M.O.A.は救急出動件数の約51%を占める8時から17時に運用するので、育児などの理由で24時間勤務が困難だった救急救命士が現場で活躍できるようにすることにも期待しています！

1 地域に根差した応急診療と地域医療

津市応急クリニックは、休日や夜間、年末年始でも安心して受診できる応急診療所で、コロナ禍においても市民の皆さんの安心のため、地域医療の一翼を担ってきました。

また、津市家庭医療クリニックは山間部の地域医療を確保するために巡回診療や訪問診療などにも対応し、地域のかかりつけ医として利用されています。



津市応急クリニック



津市家庭医療クリニック

2 いくつになってもこの街で自分らしく暮らしてほしい

高齢者の皆さんが地域とつながり、安心して暮らしていただけるまちを目指し、医療と介護のスムーズな連携を支援するために津市在宅療養支援センターを設置しています。

また、住み慣れた地域で元気に暮らし続けられるよう、フレイルパトロールやふれあい・いきいきサロンなど、介護予防のための地域支援事業を進めるとともに、市職員による高齢者世帯のごみ出しサポート事業や、特別養護老人ホームの整備など介護保険サービスの充実を図っています。



津のきらり いきいきさん

IKIKI-SAN

認知症の人と家族の会 三重県支部副代表 河戸義男さん



13年前に妻が認知症になり、「認知症の人と家族の会」に入会した現在、交流事業の相談員や認知症コールセンターの広報に従事するようになりました。認知症は回復することはありません。だからこそ、介護者側が考え方を考え、自分自身も大切にしながら対応していく必要があります。私自身も、プールに通って水中ウォーキングをしたり、三重短期大学の科目等履修生として講義を受講したりして、毎日を楽しんでいます！これからもコミュニケーションやつながりを大切に、周囲の皆さんと支え合いながら元気に暮らしていきたいです。



4 災害に強いまちづくり 終わりなき防災対策

陸路・海路・空路を活用できる環境に立地する津市防災物流施設は、災害時の生活物資の緊急輸送や被災者救護などの拠点です。また津南防災コミュニティセンターは、津波発生時は沿岸部に住む住民の避難所として、大規模災害発生時には広域避難施設として機能します。

海と川に囲まれ、海拔1~2mの香良洲地域では、住民からの提案により実現した香良洲高台防災公園の整備が進んでいます。さらに、気候変動の影響による豪雨への浸水対策を進めるとともに、街中の浸水情報をリアルタイムで把握できる浸水センサによる日本初のプロジェクトが始動しました。



香良洲高台防災公園



津市防災物流施設での物資受け入れ訓練



自販機に設置された浸水センサ

令和6年能登半島地震 被災地支援から

2024年1月に石川県能登地方で発生した能登半島地震においては、津市も救急救助活動や避難所運営、給水活動などの被災地支援活動を行いました。さらに、現地でも活動した職員等から報告された課題を反映し、災害時の交通機能確保や水道管・住宅の耐震化、支援物資等の受け入れ態勢の確保などを中心に、津市地域防災計画を見直し、大規模災害に備えています。

